
一般講演・ポスター発表 P-07

谷八木川におけるミシシippアカミミガメ *Trachemys scripta elegans* の生息密度と環境の関係

瓦谷弘樹・谷口真理・三根佳奈子・亀崎直樹 (神戸市立須磨海浜水族園)

Relationships between habitat density of *Trachemys scripta elegans* and environmental factors in Taniyagi river, Akasi City, Hyogo prefecture.

Hiroki KAWARATANI, Mari TANIGUCHI, Kanako MINE and Naoki KAMEZAKI (Kobe-Suma Aquarium)

外来種ミシシippアカミミガメ(以下、アカミミガメ)の好む環境を明らかにするために、生息密度と環境要因との関係を調べた。2013年5-11月にカメ専用の捕獲網を谷八木川内の44箇所に合計延べ679個設置し、カメを捕獲した。カメの生息密度は、1網あたりに捕獲されたカメの個体数(Catch Per Trap, 以下CPT)とし、網設置箇所の環境(河口からの距離(m), 堰下からの距離(m)川幅(流路幅・陸地幅(m)), 水深(cm), 流れ(止・弱・強), 陸地の組成(陸地無・土・コンクリート), 川底の組成(大礫・小礫・砂・泥・コンクリート), 堰(下・上)・橋・淵・抽水植物の有無計11項目)を記録した。分析は統計解析フリーソフトRを用いて、重回帰分析を行った。なお説明変数の選択はステップワイズ法を用い、変数採用基準のF値は1.5と設定した。アカミミガメのCPT(平均値±標準偏差, サンプル数, 範囲)は 1.0 ± 1.0 (N=44, 範囲0-3.5)であった。44箇所を対象に重回帰分析を行ったところ、川幅、クサガメのCPTが正に影響し、堰下からの距離が負に影響した。アカミミガメが侵入しやすい環境は、川幅が広く、堰下に近い場所で、クサガメと同様の環境を好むと考えられた。次にアカミミガメのCPTが1以上と高密度の16箇所を対象に分析した結果、川底の組成(大礫), 抽水植物の有無が正に影響した。アカミミガメが高密度に生息する環境は、川底に大礫が多く、かつ抽水植物が豊富な場所であると考えられた。以上のような環境に多く網を仕掛けることで、アカミミガメが効率的に捕獲でき、効果的な防除が実施できると考えられた。